

# 事業所の出会い創出

## 商工会議所 人脈拡大交流会

事業所同士の新たな出会い創出とビジネスチャンスを探る富士商工会議所の「会員人脈拡大交流会」が4日、同会議所で開かれた。

富士市内の製造業や建設業、サービス業、小売業など63社から94人が参加。代表企業2社が自社のアピールポイントやアイデアを紹介するプレゼンテーションと、参加者同士が自由に交流する名刺交換会で、新たな事業展開の道を模索した。プレゼンでは、県内外で古紙のリサイクルボックス「こしのえき」を展開する松岡紙業Ⅱ、蓼原Ⅱと、自動車部品製造販売などを手掛ける

るタカラ産業Ⅱ五貫島Ⅱが発表。松岡紙業は、「こしのえき」事業のほか、古紙を利用した油吸着マントの開発販売など

について同社マント事業部長の伊藤元昭さんが紹介。マント事業については、静岡大学や県富士工業技術支援センターとの共同開発で



誕生した特許取得品であることや、従来製品の8-12倍の吸着性を実現し、飲食店を中心に今後全国展開していく展望を披露した。

タカラ産業の渡辺哲史社長は、「ニッチ(すき間)産業として皆さんの力になりたい」と強調。高い全国シェアを誇る自社開発トラック、バス部品を示し、購入を呼び掛けた。カオチン電着塗装、加振装置による振動実験の利用、5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)支援サービスなど培ってきた技術や設備、会社風土を応用した新事業展開もPRした。名刺交換会では、参加者は開始間もなくから同業、他業者を問わず積極的に話し掛け、交流を広げながら情報交換していた。交流会は今年3月

に続き2回目。初開催後、「新しいネットワークができた」「その場で商談成立の直前まで

話を進めることができた」など再度橋渡しを要望する声が多数寄せられていたという。